

都道府県別賞一等

祖母と保険と私

鹿児島県 鹿児島第一中学校 三学年

永井 桃

私の生命保険のイメージ。

それは安心の積み重ね。もし地震や津波、交通事故や病気など、何か予期出来ない事があった時、未来の自分や家族を助ける手段。テレビやラジオのコマーシャルなどから、そういうイメージを持っていました。

加えて、私には身近に、保険のありがたさを教えてくれる存在もいます。それは、祖母です。

祖母は、私が産まれるずっと前に、二つの大病を患いました。子宮頸ガンと乳ガンです。手術でリンパ腺や胸を取り、放射線治療では髪の毛を失い、体重も落ち、傷の痛みや吐き気等の副作用とも闘い、それはそれは大変な思いをしたそうです。

「でも、保険に入っていたから、少なくともお金の心配はしなくて良かったの。それは今思い返しても、本当に良かったと思う。」

祖父や私の父を含む子供達のサポートを心の支えにして、病気を治そうと前を向き、治療やつらいリハビリをやり抜き、二十五年経った今は元気いっぱいです。カラオケ教室や俳句、グラウンド・ゴルフと、毎日のように元気に楽しそうに出かけている祖母が、私は大好きです。

この夏、祖母を通して新たな保険の魅力に気付きました。それは、「希望を与えてくれる」という事。

八月に、親戚一同が集まり、八十歳を迎えた祖母と、来年一月に八十八歳の米寿を迎える祖父の、長寿のお祝いをしました。祖父母が、「保険が満期になってお金が出来たから。」と、霧島温泉郷のホテルに親戚十九名を招待してくれたのです。こんな事は初めてで、ワクワクしました。

ご馳走を食べ、温泉に入った後に、子供達が感謝状や記念品、花束やメッセージの寄せ書きを渡して、祖父母にお祝いの言葉と感謝の気持ちを伝えました。いつも穏やかで、感情を表に出さない祖父母が、ともに涙ぐんでいて、私達ももらい泣きしそうになりました。

「長い人生、これまで本当に色々あったし、これからも色々あると思うけど、私は今とっても幸せ！」

「次の保険の満期まで頑張って長生きするから、また皆で集まろうね。」

満面の笑顔で記念写真に納まる祖母を見ながら、私も八十歳になった時に、

第63回中学生作文コンクール

こんな風に幸せ！と断言出来るような生き方をしたいな、と心から思いました。今の祖母を支える物。その一つに「保険からもらえる安心感」があります。未来に何が起るかはわからないけれど、保険に入っていれば、安心感は増やせると思います。

未来に備える事は、人間の知恵であり、人間にしか出来ない事だな、と思います。おばあちゃんを支えてくれて、そして次の目標・希望を与えてくれて、保険よ、ありがとう！

私は今、十五歳。夢は創薬研究者になる事です。そう遠くない未来に大学進学、そして就職、という人生の新たなステージが見えてきました。自分の人生を、主体性を持って真剣に考え、しつかり人生設計をしたいと、祖母の姿を見て思い始めました。

また、祖母から保険会社には、個人の夢や希望を聞いて、その実現に向けて人生設計と一緒に考えてくれる、保険のプロがいると教えてもらいました。自己判断ではなく、保険のプロの方々に相談して、自分の未来に向けて私なりに安心を積み重ねていきたいと思っています。